

『先人の偉業と知恵』偉人伝

高鍋の地で生まれ育った偉人

児童福祉の父 石井十次

石井十次は一八六五年、児湯郡上江村馬場原に高鍋藩の下級武士の子として生まれ、六歳より藩校「明倫堂」で学びました。ここで学んだ、年記者を敬い親を大切にすることや、みんなを助け合う儒教的精神は、後の十次の人生に大きく影響を及ぼしました。

最初の孤児救済

十七歳の時、医師になるべく岡山県の甲種医学学校に入学します。医学生であった二十二歳の時、診療所の隣に貧しい巡礼者の宿があり、そこで出会った子ども連れの女性から男の子を一人預かりますが、これが孤児救済の第一歩となりました。やがて預かる児童は徐々に増え、寺の一角を借りて「孤児教育会」を創設します。孤児院の前身です。その後、十次は医師になるのか孤児救済の道を選ぶのか大変悩みましたが、ついに孤児救済に生涯を捧げることを決意したのです。



十次亡きあと、その事業は大正十五年に一旦閉じられましたが、昭和二十年、十次の孫にあたる児嶋虎一郎が戦争孤児の救済を決意して、茶臼原に「石井記念友愛社」を設立しました。その後、児童福祉法施行により石井記念友愛社が児童養護施設として認可、現在は次男の児嶋草次郎氏が事業を継承しています。

十次の偉業
時代の変遷の中で孤児は年々増加、孤児院の存続が心配されましたが、不屈の精神で乗り切っていました。十次の偉業は、ただ孤児を預かり食べさせるだけではなく、将来自立できるように職業訓練を行ったこと、また、「密室教育」「満腹主義」「家族主義」など、心も体も健康に育つ児童教育に取り組んだことです。

茶臼原へと移住

さらに、岡山での児童教育から次の段階に進むため、明治二十七年、十次は茶臼原へ孤児院を移転、開拓に着手しました。自然の中で自由に遊び学ばせるためです。茶臼原の大自然の中で、子どもたちは十次の教えを守り、「働き、かつ学ぶ」日々を過ごしました。十次の理想はこの茶臼原で確実に実を結び始めていました。しかし、十次は大正三年、志なげにして倒れました。四十九歳でした。

郷土が誇る賢人「高鍋町名誉町民」

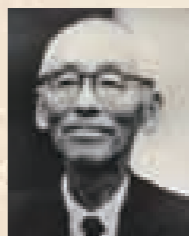
「高鍋町名誉町民」の称号は福祉事業や産業、文化の発展など、社会公益上偉大な貢献をされた方々に贈られるものです。次の6人の方が高鍋町の名誉町民です。



久保 昌業

〔くぼ まさなり〕
1869.5.5 ~ 1960.8.3

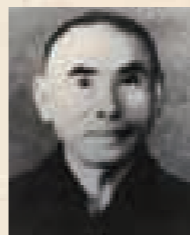
明治32年から昭和22年までの40有余年にわたって、町長、県議会議員、町議会議員、高鍋無尽KK、宮崎無尽KK取締役を歴任し、町政の発展に尽力しました。



原 坦

〔はら ひろし〕
1881.6.20 ~ 1963.9.27

町長、県議会議員、町議会議員など、大正10年から昭和22年の間に歴任、このほか、児湯郡自治会長、畜産組長、養蚕組長、高鍋町産業組長、県農業会児湯支部長などを歴任し、その間多くの功績をあげました。



柿原 政一郎

〔かきばら せいいちろう〕
1883.5.25 ~ 1962.1.14

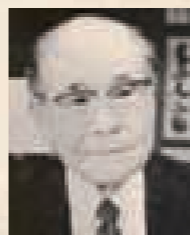
東京大学哲学科を卒業後、社会労働問題を研究し、政治経済の各方面に広く活躍。宮崎県文化功労賞、全国社会教育功労賞などを受賞。高鍋町長在任中に私費を投じて図書館を建設し、町に寄贈しました。



安田 尚義

〔やすだ なおよし〕
1884.4.19 ~ 1974.12.24

歌人、郷土史家として知られています。主な著書に日向文庫(秋月種茂と秋月種樹、上杉鷹山)、安田尚義著作選集、歌集群落など。このほか、高鍋藩史話、度々集などがあります。



尾崎 一男

〔おさき かずお〕
1913.9.29 ~ 2006.1.5

法政大学卒業後、高鍋信用組合(現高鍋信用金庫)に勤務し、現在の信用金庫の礎を築きました。昭和26年には町助役に就任、高鍋商工会議所会頭、町体育協会初代会長、石井十次顕彰会初代会長などを歴任し、町政の発展に寄与しました。



上條 勝久

〔かみじょう かつひさ〕
1910.8.29 ~ 2011.12.27

参議院議員を2期務め、建設大学校長、全国建設研修センター特別顧問などを歴任。その間、小丸川一級河川昇格、国道10号バイパスの予算化や東九州自動車道の原案を決定づけるなど、社会資本整備に大きな功績を残しました。

『文化発信』

郷土の豊かな文化財

高鍋町は「歴史と文教のまち」として歴史的背景をもった豊かな歴史資料を保存展示する歴史総合資料館と、機能的な多目的ホールを備えた美術館があり、町民の文化活動の場として、また高鍋町の文化情報の発信基地として活用されています。



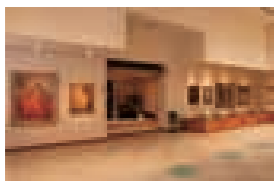
青い目の人形「メアリー」

昭和2年、日米友好の証としてアメリカから全国の小学校に贈られた人形の1つです。戦時中、敵の人形としてほとんどが処分されましたが、県内では唯一、高鍋東小学校に残っています。(高鍋東小学校所蔵)



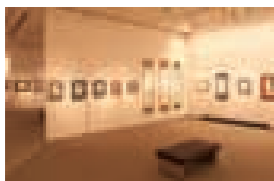
高鍋町美術館

歴史総合資料館から徒歩で5分ほどの所にあり、丸みをおびた美しい屋根が印象的な美術館です。館内は常設展示室、一般展示室、企画展示室のほかに、実習室・図書・視聴覚コーナーなどがあり、年間を通してさまざまな展示会が開かれ、町民の文化的な活動の場となっています。また、ロールバック方式の多目的ホールは242席あり、演奏会や映画鑑賞、発表会など多彩な文化活動に広く利用されています。



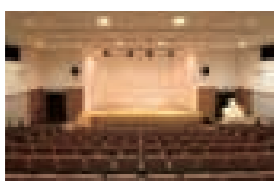
常設展示室

収蔵されている作品や寄贈作品などを、年間を通して計画的に展示しています。



企画展示室

企画展、巡回展のほか、個展や美術団体展など、町民の芸術文化向上にも大いに利用されています。



多目的ホール

電動で出し入れできる242席のイスを設置。講演会、ミニコンサートなどに利用されています。



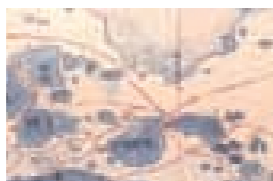
高鍋町歴史総合資料館

舞鶴城の異名をもっていた高鍋城の城跡に、歴史総合資料館があります。町の文化財や民俗資料が展示され、郷土の偉人として知られている石井十次や秋月種樹、小澤治三郎などのコーナーもあります。中でも、高鍋城下絵図、高鍋藩領内絵図、参勤交代で使用された海路図などは貴重な資料であり、江戸時代の地図を間近で観ることができます。また、昔の農村生活を支えてきた民俗資料なども展示され、高鍋町民の生活の歴史を垣間見ることができます。



高鍋藩抱え刀工の刀

高鍋藩召し抱えの刀工、岩下鍛冶師作の刀です。盛久、盛令父子は、高鍋藩初代藩主秋月種長公に仕え、筑前より高鍋に移ってきました。



海路図 (一部)

参勤交代の時に使用された海路図です。美々津から大坂まで15日から20日ほどかかったといわれています。当時の海図として貴重な資料です。



新納院領内絵図

藩政時代の領内絵図の1つです。ほかに高鍋藩領であった福嶋領内絵図、諸県領内絵図も展示されています。